

# 多元化する 〈自己〉のありか

私たちは状況に応じて〈私〉のありかたを変化させています。それは、場によって柔軟に使い分ける適応のすがたであり、ときとして起こる一貫性の喪失は、混乱や解離の危機として顕れます。現代において〈まとまりをもった自己〉は、もはや幻想でしかないのかもしれませんが。

では、不安にもちこたえて責任を負うことのできる〈私〉はどこに成立するのでしょうか。多元化や分権化、あるいは分人として近年語られる〈自己〉のありかについて、心理学、社会学、精神医学の実証的なデータと臨床経験を交差させながら考えていきます。

会場

24号館  
24202教室  
(A~D共通)

8/29(土)

10:00~12:00

## A 意識できる自己、できない自己

工藤 恵理子(本学教授)

“私”は何に基づいて成立しているのでしょうか。意識される自己とその自己を作り上げる意識することができない心理過程に関する社会心理学の実験研究の知見を通して、自己の二重性の観点から“私”とは何かということを考えます。

13:00~15:00

## B 〈わたし〉のかたちとゆくえ

花田 里欧子(本学准教授)

〈わたし〉はどんなかたちをしているのだろうか、そもそもかたちあるものなのか、ないものなのか。それはどこにむかうのだろうか、行き着く先はあるのだろうか、ないのだろうか。グレゴリー・ベイトソンの輪郭に関するメタローグを手がかりに、心理臨床の観点から〈わたし〉のありようやむかうところを考えます。

8/30(日)

10:00~12:00

## C 自傷・自閉・解離 — 自己の切り離し

柴山 雅俊(本学教授)

現代の精神科臨床において、自傷、自閉、解離などの問題は避けることのできない大きな問題となっています。こうした精神の病態にみられる「自己の切り離し」を通して、現代人の“こころ”について考えます。

13:00~15:00

## D 現代社会と自己の多元化

浅野 智彦(東京学芸大学教授)

社会調査のデータをみながら、自己の多元化がどのように進行しているのかを確認します。その上で、現代社会のどのようなあり方が自己の多元化を押し進めてしまうのか、考えてみます。鍵になるのは親密性志向の強まりとコミュニケーション能力への要求の高まりです。

# ファックス 03-5382-6479

## 夏季特別講座「多元化する<自己>のありか」 ファックス 受講申込書

フリガナ		講義No. (A~D) 該当に○をつけてください
氏名		<b>8/29(土)</b> <b>A</b> <b>B</b>
住所	〒    -	<b>8/30(日)</b> <b>C</b> <b>D</b>
		どちらかに○をつけてください
		<b>一般</b> <b>学生</b>
		受講コマ数(    )    受講料(    )円
		1コマ 1,000円(学生500円※)
電話番号	(    )    -	※武蔵野地域自由大学学生の方も含む ※[当日学生証を持参ください]

- 対象** 一般(社会人・卒業生・教職員・学生)
- 受講料** A~D 1コマ 1,000円(学生500円※)  
※武蔵野地域自由大学学生の方も含む[当日学生証を持参]
- 定員** 各回 250名(先着順)
- 申込方法** ①~③のいずれか1つの方法でお申込みください。  
学生の場合、必ずその旨明記してください。  
受講料は、当日会場にて現金でお支払いください。  
**締め切り 8月19日(水) 必着**

- ①ファックス** 上欄の申込用紙に記入し、03-5382-6479に送信する。
- ②Eメール** 〒住所・氏名(フリガナ)・講義No.(A~D)を書いて support@office.twcu.ac.jp に送信する。
- ③ハガキ** 〒住所・氏名(フリガナ)・電話番号・講義No.(A~D)を書いて 〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 教育研究支援課 に申し込む。
- 託児** 託児あり(要予約)  
ご希望の方は、事前にご連絡ください。  
TEL.03-5382-6470

- 交通案内**
- 西荻窪駅(JR中央線・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ)北口より徒歩12分  
北口(1番のりば)より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車
- 吉祥寺駅(JR中央線・総武線、京王井の頭線)から  
北口(3番のりば)より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車
- 上石神井駅(西武新宿線)から南口より西荻窪駅行バスで「地蔵坂上」下車、  
徒歩5分



### 講師プロフィール

- A 工藤 恵理子** 神奈川県生まれ。東京女子大学教授。専門は社会心理学、特に社会的認知および自己。論文:「現在の“私”によってつくられる過去の私—想起された過去の自分に関する社会的認知研究」心理学評論(2008年)。
- B 花田 里欧子** 福岡県生まれ。東京女子大学准教授。日本学術振興会特別研究員(DC2)、京都教育大学准教授を経て現職。博士(教育学)。専門は、臨床心理学、特に家族心理学、家族療法、短期療法/ブリーフセラピー。著書:『パターンの臨床心理学:G.ベイトソンによるコミュニケーション理論の実証的研究』(2010年,風間書房)他。
- C 柴山 雅俊** 愛知県生まれ。東京女子大学教授。虎の門病院精神科医長、東京大学精神神経科講師を経て、現職。医学博士。専門は精神医学、とりわけ精神病理学。著書:『解離性障害—「うしろに誰がいる」の精神病理』(2007年,筑摩書房)、『解離の構造—私の変容とくすび』の治療論』(2010年,岩崎学術出版社)。
- D 浅野 智彦** 宮城県生まれ。東京学芸大学教授。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て現職。修士(社会学)。専門は自己・アイデンティティ論および若者文化論。著書:『自己への物語論的接近』(2001年,勁草書房)、『趣味縁から始まる社会参加』(2011年,岩波書店)、『「若者」とは誰か』(2013年,河出書房新社)、『検証・若者の変貌』(2006年,勁草書房,編著)、『若者とアイデンティティ』(2009年,日本図書センター,編著)。